

令和7年度 美術科 第3学年 年間指導計画

学期	月	時数	学習内容	評価規準			ICTの活用
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1学期	4月	1	・オリエンテーション				電子黒板
	4月 5月 6月	8	・銅レリーフ (腐食・塗装) ・ジャバラ絵導入 ～世界の名画～	春休みの課題であった点描の終了を確認し、ヘラで凸部分を膨らます。その後、腐食→磨き→表面保護塗装→額設置で完成をめざす。 できるだけ世界的な(なじみの)名画をテーマにすることで二面性の面白さが上がる。	点描の粗密、ヘラの扱い、耐水ペーパーでの磨き方、透明ニス塗り方、額の取り付け方等について注意を守って行う。 ヨコ長で「赤富士」と「黒富士」・無彩色と有彩色・昼と夜・張りぼてと骨組のように同じ構図で全く違った主張になるものを選ぶ。	友達作品の途中経過を見たり、完成作品を鑑賞し合い、表現の多様性を知る。ワークシートに記す。 苦労した点や変化させたポイントを詳しく解説した名札にする。友達作品から発想やその良さを認知する。	電子黒板 タブレット
	7月	2	・5つの名画からのメッセージ	世界の巨匠の生きた時代背景と生き様を学ぶ。	ゴッホ・フェルメール・ダリ・葛飾北斎・ムンクの技法と作品メッセージを考える。	班ごとに仮説を立て、発表し合い、全員で検証する。	Neoroom
	8月	1	・ポスター(有志)	課題とするポスターの題材を選び、原画を描き、レイアウトや配色を考え、試行錯誤する。	応募の条件を遵守し、四つ切画用紙に下描き、着色(ポスターカラー)を施す。アドバイスを受け、細部や標語にもこだわり完成させる。	夏季補習教室に参加し、ポスターコンクールに応募する。	タブレット
2学期	9月 10月	8	・ジャバラ絵 ～世界と私の名画～	右からの(原画の模写)に関してはできるだけ本物に忠実な配色を心がけ、作者の意図を感じとる。左からの自分オリジナルの配色も良く考える。	自分の新しい観点にはどんな配色が効果的かを考え、制作途中の画像を授業ごとに撮り、家で振り返り、客観的に課題を認識する。	友達作品を鑑賞し、自分にはない良さを感じ取って、文章化し、作者に示し、相互理解を図る。加えて最後の課題「アート時計」の制作に生かす。	
	10月 11月 12月	12	・アートグラス時計 (スクラッチ法)	制作の手順と条件、道具やクオーツの装着について理解する。デザインのテーマは時計として、卒業記念品として、オリジナル版としてふさわしいものを考えるようにする。 参考作品を見てできるだけ具体的な原画を考える。	①原画作成→ ②写し→ ③スクラッチ→ ④着色→ ⑤針とクオーツの装着→ ⑥フレーム の工程を一つ一つについてねいに積み上げていく。特に着色時の絵の具の水の量、黒が基調なので明度を明るくすること、時計・分針・秒針の取り付け位置に気を付けさせる。	学習発表会の展示作品から友達作品を鑑賞し、感想をまとめ、相互理解に努める。 自分の作品の制作も振り返り、卒業後の生活に彩を与えるようにする。	タブレット
3学期	1月 2月	7	・ペーパーウエイト (サンドブラスト法)	サンドブラスト法の意味と制作の流れを熟知する。白と透明のバランスを元に複雑な図案を考える。	空気を入れないようにマスキングシートを貼り、トレースした図案を裏返し、カーボン紙で写し、凹ます部分(白)をカッターで切り取る。 →業者引き渡し	制作を振り返り、友達作品を鑑賞し、感想をまとめる。 学習発表会に出品する。	電子黒板 書架カメラ
	3月	2	・西洋の美術用語	時代の流れ、日本美術との違いを確認する。電子黒板や動画でできるだけ大きく、また細部の表現を詳しく確認する。	技法の効果や作品の意味をノートに図示しながらまとめ、古代に思いを馳せ、美術史の流れを理解する。	班ごとに話し合い、作品の情報や見る側の感想を共有する。友達の意見も聞き、今後の生活に生かす。	タブレット

評価計画

【各観点ごとの評価方法】

評価資料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ポスター ・資料収集 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・制作過程(作品) ・完成作品 ・ワークシート(振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ノート ・アイデアスケッチ(原画) ・提出物